道徳学習資料　平成２７年４月編

問題解決的な道徳授業　　こういうスタイルの道徳の授業をどう考えますか？

１年生「はしのうえのおおかみ」の授業です。

【導　　入】

T　**皆さんは、人に親切にしたことはありますか。**

C　泣いている子をなぐさめた。

T　立派ですね。逆に親切にしなかったことはありますか。

C　友達にいじわるしちゃった。

T　親切にするとは、どういうことなのだろう。

C　人に何かをしてあげること。

C　人にいじわるしないこと。

【展開前段】

T　そうです。でもなかなか親切にすることって難しいようですね。今日は、「はしのうえのおおかみ」を読んで親切について考えましょう。

T　資料範読

T　**この一本橋で困ったことは何ですか。**

C　一本橋だから一人ずつしか渡れないこと。

T　**オオカミはウサギにどうしたらよいだろう。(考えの根拠となる理由や行為の結果も問うようにする)**

C$_1$案　クマのように渡してあげる。→オオカミは強いから。みんないい気持ちになる。

C$_2$案　ウサギたちに戻れと言う。→意地悪は面白いから。オオカミは楽しいけれど、ウサギたちは嫌な気持ちになる。

C$_3$案　自分が戻ってあげる。→相手に悪いから。ウサギはうれしいけれどオオカミは損した気持ちになる。

C$_4$案　お互いに渡るのをやめる。→二人は渡れないから。オオカミもウサギも残念な気持ちになる。

T　**どれが一番いいだろう。**

C　１案がいい。みんなが喜ぶから。→オオカミもクマも喜ぶから。

C　オオカミは強いから「戻れ」と言ってもいいよ。

T　クマにそういわれてもいいですか。オオカミの友達にもそういいますか。

C　困る。やっぱりみんなが喜ぶやり方がいい。

【展開後段】

T　あなたがオモチャで遊んでいます。そこへ**幼稚園のＡ君が来て、そのオモチャで遊びたいといいました。あなたならどうしますか。**

C　「嫌だ」と言う（２人)。「帰れ」と追い払う（３人)。貸してあげる（５人)。後で貸してあげる（３人)。一緒に遊ぶ（７人)。

T　**どれが一番いいと思いますか（ランキング)。さっきのクマならどうするでしょう（転移を促す)。自分がそう言われてもいいのはどれでしょう（可逆性を問う)。**

C　一緒に遊ぶ（12 人)。後で貸す（8 人)。

C　さっきのクマなら一緒に遊んであげるよ。

T　そうしたら、どんな気持ちになりますか。

C　とってもいい気持ちになるよ。

T　今日の授業から、親切ってどういうことだと思いましたか。

C　相手のことを考えて何かしてあげること。→みんなが楽しくなること。

【終　　末】

T　今日の授業から、親切とはどういうことだと思いましたか。

C　相手のことを考えて何かをしてあげること。みんなが楽しくなること。

T　そうです。親切とは自分のことだけでなく、相手のことも思いやることです。そうすると、相手も気持ちよくなります。これから困ったことがおきたら、相手のことを考えて、いろいろ親切にしてみましょう。今度の幼稚園との交流会でどんな親切ができますか。

C　遊んであげる。→教えてあげる。

T　あなたたちなら、きっとできます。いろいろ親切にしてあげましょう。

授業記録中の「→」は、子供の発表が続いたり、教師が切り返したりして深めたものと考えてください。授業記録を読んで、どのように感じられましたか。

導入段階で、「親切とはどんなことか。なぜ必要か」など本時で学ぶ道徳的価値の意味を問うと共に、その価値に対する自分の現在の考えを明らかにさせます。次に展開前段で、資料中の課題に対する解決策を探らせ、その中で最も望ましい解決策を考えさせます。展開後段では、前段で学んだ知恵やスキルを別の問題でケースで考えさせ、各自の解決法を明らかにすることで前段の学びを転移できているか確かめます。終末では、導入の問いかけに対する結論を出し、今後の生活で授業で学んだことを生かせるように働きかけています。ちなみに、資料の提示方法は分断でも一括でも良いそうです。また、展開後段は、役割演技に変えることで、展開前段で学んだことを即興的に生まれる別の場面で応用できるか試しても良いということです。この授業を、道徳の授業としてどのように評価しますか。

・方法論の学習になっていて、この授業で本当に子供の心は育つのか。
・教師の一問一答で授業が進められており、価値の押し付けにならないのか。
・終末段階で本当に「これからは親切にしよう」と言ってしまって本当にいいのか。

等々、様々な疑問が生まれます。でも、展開前段で学んだ考えや判断が本物かどうか授業後段で明らかにしたり、事後措置として幼稚園との交流会で本当に実践に移せるかを確かめる場を設定しています。授業で学んだことと道徳的な行為を一体的にとらえようとする授業は、今までほとんど行われてこなかった授業スタイルです。

この授業記録は、『問題解決型の道徳授業　～プラグマティック・アプローチ～』（明治図書）にあったものです。著者は、文科省「道徳教育の充実に関する懇談会」や中教審「道徳教育専門部会」の委員として、道徳教科化の中心となった柳沼良太氏（岐阜大学准教授）です。委員会の委員には、「テーマ発問」の永田繁雄氏（東京学芸大学教授）もいますから、新しい時代の道徳の授業スタイルを考える際の一つの方向性を示すものになるはずです。

柳沼氏は著書で次のように述べています。少し長いですが、柳沼氏の考えの土台ともなりますので引用します。

「そもそも、子供たちは自明の道徳的価値を常識としてすでに知っているため、それをわざわざ道徳授業で教え込まれても、うっとうしい（ウザイ）と感じられるだろう。その一方で、子供たちが現実に直面する道徳的問題は、ＴＰＯ（時間・場所・状況）が多種多様であり、力関係や利害関係も複雑に絡んでくるため、自明の建前的な道徳的価値（きれいごと）では到底対応できない。そうした中で子供たちが実際に道徳的問題に直面すると、道徳授業よりも自分の経験を重視して試行錯誤を繰り返し、ときに思考停止に陥って、無気力に他者に従属したり、キレて無謀な言動に出たりすることもある。

こうした現状を省みて、**これからの道徳授業で求められるのは、自明の道徳的価値では対応しきれない問題について安易な判断を停止し、道徳的価値の意義を内省し、実際に問題解決できる実践力を養うことである。**子供たちは自ら道徳的問題に取り組み、解決策を構想し、実践し、その効果を確認することで、信念を固め、習慣を形成し、人格を創造していく。道徳授業において、こうした問題解決の経験を適切に積み重ねることができれば、子供たちが自己の成長や幸福の増大を実感しながら、本当の「生きる力」を身に付けていくだろう。(P10～P11)」

ちなみに、プラグマティズムとは、デユーイ（JoneDewey）の教育理論と方法論をもととしたもので、「ある観念（考え）を行為に移した際に、その結果の有効性によってその観念の意味や真理性を判断しようとする哲学(P13)」だそうです。

いずれにしても、子供の反応を予想しながら実際の授業展開を想定してみると、まだ完成形とはいえないようです。疑問を一つずつ払拭しながら改善を重ねることでよりよい指導にできそうです。そこに私たちの研究の余地が残されています。